

令和三年度

高校生のための

話芸の

三きょうだい

と太神楽曲芸

鑑賞会

令和3年

11月4日 木

開演 / 10時30分

アワーズホール 大ホール

菊地 まどか

旭堂 南龍

桂 まん我

豊来家 幸輝

明石商業高等学校



# 時うどん

桂 まん我



### 解説

ポピュラーな斬なので、生徒の皆さんもよくご存知のことと思います。ただそれだけに演者は細部に渡り苦心する所が多い斬です。東京では『時そば』と名称が変わります。関西文化と東京文化の違いが、こんなところにも出ていて興味深いものです。

### 経歴

まん我は、四代目桂文我門下。入門から間もなく実力を発揮し、数々の大きな賞を受賞している本格派です。平成19年「平成18年度文化庁芸術祭賞新人賞」受賞を皮切りに、平成21年に大阪市の「平成20年度咲くやこの花賞」を受賞。その後、東京・名古屋・大阪・金沢で「桂まん我独演会」を開催。そして平成23年には「NHK新人演芸大賞」を受賞しています。落語以外にも、アニメーションの「元祖」錦影絵」を継承しています。

# 稲むらの火

菊地 まどか



### 解説

安政の大地震(1854年)により、広村(現和歌山県広川町)に大津波が押し寄せた。夕刻、津波による大混乱の中、高台に住む庄屋の濱口梧陵は稲むら(ワラ)に火を点ける。夕闇に煌々と明る「稲むらの火」は、被災した者たちが避難する道標となった。濱口梧陵の機転と尽力が、多くの人命を救い、村は奇跡の復興を遂げる。世界津波の日(11月5日)制定の由来となり、日本遺産にも選定されているお話。

### 経歴

まどかは、二代目京山小園嬢門下。自然災害の教訓を、浪曲で後世に語り継ぐべく「防災浪曲」を考案。稲むらの火の館(和歌山県広川町)の協力により、防災浪曲「稲むらの火」を創作。人は、いつ助ける側、助けられる側になるか分からない。人情のふれあいを描く防災浪曲が、いま注目を集めています。

## 令和三年度 高校生のための 話芸の 三きようだい と太神楽曲芸 鑑賞会

### 番組

一 三きようだい  
トーク

二 稲むらの火  
菊地 まどか

三 荒大名の茶の湯  
旭堂 南龍

四 ワークシヨップ

五 太神楽曲芸  
豊来家 幸輝

六 時うどん  
桂 まん我

# 荒大名の茶の湯

旭堂 南龍



### 解説

細川忠興、加藤清正、池田輝政、浅野幸長、黒田長政、加藤嘉明、福島正則がお茶会に招かれる。この七名の中で、茶の湯の心得が有るのは細川忠興のみ。他の者は細川の真似をして、お茶会をやり過ごそうとする。ところが細川の隣に座る加藤清正是、勘違いから失敗を繰り返す。清正の失敗に気付かないまま、池田輝政以下、ことごとくそれを真似することとなる。

### 経歴

南龍は、旭堂南左衛門門下。平成30年に講談界の大名跡である『南龍』を襲名した実力派です。平成31年には落語、浪曲、能楽、茶道の各界から意識の高い人材を集め「霜乃会」を結成。伝統芸能の垣根を越えて切磋琢磨し研鑽を積んでいます。日本初となる講談師アドバイザースタッフとして、公立中学校で授業も受け持っています。

# 太神楽曲芸

豊来家 幸輝



### 解説

太神楽は、江戸時代に伊勢神宮、熱田神宮、西宮神社の神官が、神様の代わりとして全国を巡り、獅子舞で厄払いを行ったのが始まりで、太神楽曲芸も共に演じられていました。太神楽曲芸を代表する傘回しには、傘の形が「末広がり」であることから、皆様が次第にご繁盛、ご繁栄します様にとの思いが込められています。

### 経歴

幸輝は、ラッキー幸治門下。平成6年よりジャグリングの世界で活躍する。平成27年ラッキー幸治に師事し、豊来家一門に加わる。太神楽曲芸の中でも最高難度の技である「土瓶の曲」を継承している。